

第2回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和2年8月31日（月）19:00~20:50

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員、磯崎委員、大池委員、小栗委員、河村委員、北川委員、クラーク委員
塚本委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、村田委員、渡瀬委員
（五十音順）

市側：牛尾副市長

事務局：鈴木市長戦略部長、駒形戦略推進課長、興津係長、永田主事、酒井主事、榊原主事、
服部主事

傍聴者 1人

4 内容

（開会）

（会長あいさつ）

- ・本日は掛川から東名高速道路で来た。吉田インターで降りて気づいたが、思いのほか多くの車が島田市内へ向かっていて驚いた。これだけ多くの人が島田市にいるのだなと、改めてわかった。
- ・6月29日の審議会では全体の説明等がメインで皆様からの発言の時間をあまりとれなかった。皆様の御意見をたくさん聞くために、染谷市長にワークショップ形式でこの会を進めることを認めていただいた。
- ・せっかく集まっていたいて一言二言で帰宅してしまうのは非常にもったいない。今日は意見を交わして、私たちがこれから考えていく新しい計画に反映されるようにしたい。
- ・前半は事務局から策定方針などの説明があるが、今日一番大事な議案はワークショップだと思っている。
- ・ワークショップの最後に、各グループ前に出て発表してもらおう。それをみんなでシェアしたい。
- ・審議会というのは通常、口の字形に机を組んで固い感じになる。私はワークショップ形式が好きで、様々な場所で多文化共生委員会・協議会を開催するが、年に1回はワークショップ形式を採用する。そうすると話が盛り上がり、参加した人たちから「やって良かった」という意見が多くいただけた。
- ・今日はワークショップ形式で進めていくので、皆様にも御理解いただきたい。
- ・第1回総合計画審議会の様子を7月1日の静岡新聞で載せていただいた。また、広報はまだ

にも我々の記事を載せていただいたので、皆様も御覧になったと思う。

・是非、皆様の御経験からいろいろな意見をいただければと思う。

(議題)

(1) 第2次島田市総合計画後期基本計画策定方針について

資料1及び付属資料1に基づき、駒形戦略推進課長より説明

【質疑応答】

A 委員：6ページに記載されている、開催予定のワークショップの一覧に企業・経営者のワークショップがない。企業や経営者は様々な意見を持っていると思うので、企業・経営者のワークショップを開催してほしい。

会 長：企業・経営者のワークショップは重要だと思う。

B 委員：子育て、介護、多文化共生について非常に興味がある。私自身も子育てをしていて、介護も経験している。また、農園も経営しているが人手が足りなくて、海外から人を呼ぼうと動いたがすごく大変だとわかった。

島田市は子育て、介護についてはすごく良いと思っているのだが、外国人は呼びたくても呼べない。そこで外国の人たちに島田市に来てもらうために、技能実習の資格が取れるよう、試験対策の学習ツールをネット配信できないか。外国人は熱心な人が多いので、学習する機会があれば頑張ってもらえると思う。

会 長：今、いただいた意見について議論を始めると個別の話になってしまうので、ポイントを整理すると、島田市は静岡県の中で外国人の数は決して多くない。多くないが、御意見いただいたような潜在的なニーズはある。海外から来られた人たちに、どう島田市に定着してもらおうかということ、この後のワークショップで議論していただきたい。

今世界中で外国人労働者の争奪戦が起こっている。中には、外国人は日本人の暮らす街に来ないで欲しいという人もいる。もしそう思う人がいるのなら、私はそれでもいいと思う。しかし、50年後の日本はもうダメになる。外国人に見向きもされない国になっていくと思う。

人口の社会増というと近隣市町から人を連れて来るというイメージだが、国境を越えて連れて来るとも必要。もし仮に3年から5年の制限があっても帰国しても、島田市の居心地が良ければ次につながる。そういう視点をぜひ共有しながらやっていきたい。

C 委員：今までになかった多文化共生という概念を明記していきたいということだが、これは今島田市に住んで働いている外国人たちとの共生のことなのか、たくさん外国人に島田市に来てもらうということなのか、どのような意図があるのか教えて欲しい。

駒形 課長：島田市に 1,000 人以上外国人がいるが、地元の自治会との付き合いが上手くいっていないという話をよく聞いた。島田市在住の外国人の方、今後外国から入ってくる外国人の方とうまく共生していきたいということを、今回の計画に盛りこみたいと考えている。

会 長：まず、第一義的に現在島田市に住んでいる方々と、地域との関係をどうするかということ。ただし、地域との関係イコール自治会に加入してくれということは無理。よほど長く住んでいる人でない限り絶対に加入しない。3年から4年で帰ってしまう人たちと地域をどうつなぐか。例として、磐田市では自治会のお祭りに技能実習生が参加する地区がある。とても面白い取組だし、企業と自治会の連携により、上手く技能実習生と地域の人とつないでいる。そのような成功事例は静岡県にはある。

会 長：私からこの後のディスカッションの問題提起も込めて少し話したい。今私たちは「ニューノーマル」つまり「新しい生活様式」の中に生活している。去年の今頃は全く考えていなかったことである。そして来年の今頃は「去年は大変だったよね」と笑って過ごせるようにはなっていないのではないかと思う。「新しい生活様式」と言われる中で、とりわけデジタルなつながりが重視されている時に、資料に記載のある「デジタルトランスフォーメーション」で十分カバーしきれるか。前から「デジタルトランスフォーメーション」ということは言われていたが、今の状況に対して本当に対応できるか。ぜひディスカッションで意見交換していただきたい。

事務局に一つ聞きたいが、コロナ禍の中で、今の状況を視野に入れて、「デジタルトランスフォーメーション」とは島田市はどういうことを構想しているか。

駒形 課長：コロナ禍にあっても、市民生活の利便性を向上させるということが、まず「デジタルトランスフォーメーション」の目指すべき方向性だと思っている。今、市としてその部分に対していろいろと検討しているところ。そのような点を踏まえて、皆様から御意見をいただいて、是非とも総合計画に入れ込んでいければと考えている。

(2) 数値から見る島田市の現状課題について

資料 2 に基づき、興津係長より説明

【質疑応答】

D 委員：資料の 8 ページにある小中学校の学級数について教えていただきたい。学校における学級数は法令上 12 学級以上 18 学級以内が標準とあるが、これは小中学校の学年数が違うが同じでよいのか。また、島田市の考え方は法令の基準に合わせるため学校の適正配置を進めると読めるが、そういう基準に合わせるためにやって

いくのか、それとも別の考えがあるのか教えていただきたい。

事務局：小学校と中学校は学年数が違うが基準は同じでよいのかということだが、これについては国から示されている基準であり小中学校ともに12学級から18学級である。中学生のほうがより多くの仲間と競い合ったり、高めあったりする方がよいということだと認識している。また、国の示す基準に合わせることを目的なのかとのことだが、決してそういうことではなく地域の実情に合わせた配置が大切だと考えている。そのような中で、あまり少人数になると競い合ったり高めあったりすることが難しいと考え、学校の統廃合も市として選択肢に入れているということ。

E 委員：基本的なことを聞くが、人口に外国人の人数は含まれているのか。

事務局：外国人の人数は含まれている。

F 委員：13ページの就労が認められる在留資格を持つ外国人はどのような仕事をしているか。

事務局：申し訳ないが、具体的にどの業種に何人いるかなどのデータはない。おそらく工場や農業に従事しているのではないかと考えられる。

会長：例えばベトナム人が273人いるが、島田市に関してはおそらくそのほとんどが技能実習だと思う。大きなまちに行くと留学のビザで入っていたりする。ここ2、3年でいうと「技術・人文知識・国際業務」といって大学を卒業し、専門性を持って入って来る人も増えている。フィリピン人は身分・地位に基づく在留資格で、日系人や、日本人と結婚している人が多い。

(3) グループワーク

テーマ「島田市への転入者を増やし、島田市に根付いてもらうにはどうすればよいか」についてA、B、Cの3グループに分けて意見交換を実施し、グループ毎のまとめを発表した。

Aグループ 磯崎委員、河村委員、北川委員、クラーク委員

Aグループの主な意見

- ・転入、定住ともに、まずは仕事があることが前提
- ・良質で安価な住宅があること
- ・豊かな自然をPRする
- ・医療体制を充実させる（小児科、産婦人科が少ない）
- ・教育（例：東大進学率が高い）などで特徴を出す

- ・ こども医療費完全無償化
- ・ 20年間定住で出産費用全額支給する
- ・ 島田市と周辺市町の施策を比べた比較表のようなものをつくる（島田市の子育て施策の優位性を比較により確認する）
- ・ 島田市出身者に戻ってきてもらう（Uターンの促進）
- ・ 社会移動の増加で人口を確保するなら、思い切って外国籍の人の誘致に特化する
- ・ 市民が島田市に誇りを持つ
- ・ アイコン（川越街道、島田髷など島田市の象徴）をもっと活用する

発表概要

- ①島田市にはいいものがいっぱいあるが発信が足りない（もったいない）
 - ②市民が誇りを持たなければ住み続けない、新しい人を優しい気持ちで受け入れられない。
 - ③島田市はこれだという何か「とんがった施策」で目立つことが重要
- まとめ「島田市の特徴をつくり、日本人・外国人に対して、もっとPRする」

Bグループ 大池委員、村田委員、萩原委員、渡瀬委員

Bグループの主な意見

- ・ 転入するためのきっかけ（茶畑がきれい、歴史資源が多い、空港・駅・新東名など交通インフラが充実している、人がいい）は多いがそれを生かしきれていない
- ・ 島田市は子育てに関しては成功していると思うが、子育て後の施策が必要（子育てが落ち着いた後の働く場所の確保）
- ・ 空き家対策が必要。空き家を活用して人を呼ぶ
- ・ 人を留める場所が不足している（若者、子育て世代、観光客）
- ・ 働く場所の確保が必要。大きな企業を誘致できないか
- ・ 大学を誘致する。学生時代に島田市に住むことで、住みよさや島田について知ってもらう
- ・ 外国人と交流する機会を増やすことが必要
- ・ 外国人向けの学習ツールの配信（技能実習生向け）をする
- ・ 島田市はスポーツができる施設数は県内1位。そのことを生かして賑わいを創出する

発表概要

- ①人を呼び込むには仕事がないと来ない。やはり市内に働く場所がもっとあればいい
- ②島田市には人が留まることができる場所が不足している。若者（特に学生）、子育て世代、観光客が滞留できないため賑わいが薄くなってしまふ。人が滞留することで交流が生まれ、いまちになっていく

まとめ「仕事がある 交流のまち島田を目指す」

Cグループ 小栗委員、塚本委員、中根委員、原委員、松本委員

Cグループの主な意見

- ・施設も含め、更に広く子育て支援の充実が必要だと思う
- ・病児保育をもっと充実させるといいのでは
- ・農業を始める人を呼び込めるような仕組みがあるといいのではないか
- ・インバウンドを増やしていくことが重要と考える
- ・空き家管理のデジタル化
- ・市内全域に無料WiFiがあれば住みやすくなるのでは
- ・地域コミュニティについて、相談できる相手は必要だと考えるが、程よい距離感が必要
- ・県外の人は島田市の存在を知らない。もっと島田市を知ってもらうことが必要

発表概要

①現状維持ではなく、さらにいろいろな面で良くしていくことが大切

②良くしていけば、市民が勝手に発信してくれる

まとめ「今よりもっと良い島田市になったら、たくさんの転入者が来てくれるはず」

会長

- ・皆様から多くの意見をいただいた。大変ありがたい
- ・3つのグループの意見をファシリテーターが書き起こし、それを12月の審議会で委員の皆様と共有できればと思う

(その他)

興津係長より次回審議会について案内

第3回総合計画審議会開催日時 12月21日(月)

以上

20:50 会議終了